



社会福祉法人愛篤福祉会は、利用者さんが安心して暮らせる施設づくりを目指します

便利の先の不便

先日よく行く飲食店にご飯を食べに行つた際、注文のシステムがスマートフォンでバーコードを読み込む方式に変わっていました。「こりゃー便利だ」なんて思う事はなく、正直めんどくさいと感じてしまいました。特に最近こういう事がよく起こるため、便利が誰にとつての便利なのかを考えようという事が増えました。こういったシステムははつきりいうと不便だと思つています。あくまで個人の感想で、今の時代のデジタルな生活に対応出来ている方は問題ないのかもしれませんが、**勿論従来の注文の仕方でも併せてできる事がほとんどです**が、そのことについては特に文言はなく、店員さんと呼んで聞いたときに初めてわかるという事もありそこにも違和感です。

最近はおール電子マネーの施設も出てきているそうです。時代についてこれない人はお断り、と言われてるような気がして不自由を感じます。無人のコンビニ、運転手のいらぬ車、無人決済・・・人がいらない事を便利というのなら、人がどうして必要な福祉という業態は、この先の未来どうなっていくのか。健康者しか想定していない様な社会システムが蔓延していったら、世間から**生活的な弱者**というくくりをされてしまった時、どうなってしまうのだろうかとただただ怖く感じます。

信用の上に立つモノ

若い街いわき、伸びていくいわき、いわき市歌の出だしの部分です。震災以降人口は減り、風評被害から産業も落ち込みを見せていましたが、ここ近年、商業施設の誘致や常磐モノのイベント、いわきFCの活躍などでいわきの知名度が回復、上昇傾向にありましたが、ここに来て不名誉な形でいわきの知名度が上がっています。地名の付いた企業は良い時は貢献、悪い時は一気に悪評になるのは想定できただけなのに、長く続いた悪習は切り捨てられなかったのでしょうか。

信用と信頼は似たような言葉ですが、信頼は信用を積み重ねた上であられるものと言われています。信用は過去を見、信頼は現在や未来への行動に希望をもって信じる事。過去の積み重ねを燃料に未来へ進める原動力とする、このサイクルを続けることが私達が生きていく上で忘れてはいけな事だと思ひます。私達が住む町が、安心安全で信頼できる所であることを願ひます。そして、そんな社会の中で私達も利用者の皆様に信頼して頂ける事業所運営を今後も積み重ねていきたいと思ひますので宜しくお願いします。

届きましたら事業所へ！



事業所を利用している方は誕生日の月に市から受給者証（いわき市発行の場合ピンク色の表紙）が届きます。お手元に届きましたら内容を確認の後、事業所への提出をよろしくお願い致します。必要事項の確認と事業所からの記入欄に記入の後、本人または保護者様にお返しします。

受給者証が更新されない場合、利用料が全額負担となる事がありますのでご注意ください。

見学者来所

6 月の中旬、平支援学校中等部(1年生～3年生)の生徒 7 名と先生 7 名の計 14 名が工房阿列布の見学にいらつしました。就労班のお仕事の様子や生活介護班の活動の様子などを見学しました。ありがとうございました。未来の利用者様かもしれない方達の来所に事業所としても嬉しい限りです。



今年の夏は？

昨年の猛暑が記憶に新しいですが、今年も負けず猛暑・酷暑になる見込みです。ラニーニャ現象よりの海面の水温の影響で、太平洋高気圧の勢力が強まり梅雨明けが例年より早まると予測されます。2025年の夏もとても暑い夏になりそうですね。夏バテに気をつけながら過ごしたいものです。



<寄付・物品寄贈の皆様>

小西俊一様 賀澤清明様 大兼勝彦様

<順不同です>

ありがとうございました。